

22
令和5年12月

岩手大学教職大学院



NEWS Letter

岩手大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻



「教育実践研究の成果」を更新して公開中
教職大学院ホームページにてご覧いただけます!

<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

岩手大学大学院教育学研究科研究年報
オンラインISSN 2432-924X

- 鈴木智行・鈴木久米男・田村忠・加藤孔子(2023)生徒指導対応における外部機関・外部組織との連携をいかにするための校内組織の在り方
- 高橋瑞輝・鈴木恵太(2023)算数に特異的に弱さのある児童への認知特性に応じた指導法の開発
他14編掲載、教育学研究科研究年報 第7巻



問合先: 岩手大学教育学部 〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edujim@iwate-u.ac.jp URL <https://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/>

M2 現職院生 馬場識子

2年間、県や各市町村教育委員会、各教育事務所、総合教育センター等での講義や演習を通し、岩手県の教育ビジョンや教育行政の仕組みについて体験的に理解を深めてきました。一人ひとりの子どもを主語にする教育を目指し、チームいわてとして様々な立場の方々はその役割を果たしていることを実感しました。「何のために」と問い続け、適切な現状把握に基づいた計画づくりやビジョンを明確にした協働型組織を目指します。

「学校マネジメント力開発実習」での学びと手応え

M2の学校マネジメント力開発実習では、教育委員会や教育事務所での事務局業務や研修運営業務など、学校経営や教育行政にかかわる実際の業務内容を実習しています。

M2 学卒院生 登坂卓月

岩手県の被災に伴う防災と復興の考え方を被災地で学びました。災害がいつ、どこにあっても起きる可能性があるため、災害を想定することが大切です。特に、大きな災害を経験していない児童生徒を指導する教員は、被災地に直接赴いたり、情報を収集したりしながら先んじて学びを深めていくことが必要です。また、今後も変化し続ける状況に適切に対応し続けることが児童生徒、教員ともに必要となることを忘れず、学び続けていきたいです。

教育学研究科教員 メッセージ

優れた理論ほど実践的なものはない。
優れた実践ほど理論を豊かにするものはない。
実務家教員 佐藤 進



本院においては、学校教育に関する「理論と実践の融合」を掲げ、新しい時代の学校教育をリードする人材養成を目指し取り組んでいるところであります。

学卒院生からは「臨機応変に対応できる実践力」を、現職院生からは「実践につながる確かな理論を」という言葉がよく聞かれましたが、これは、院生一人ひとりが自らの課題を構成し、解決のために必要な実践や知を求める声であると感じました。

実践の検証や理論の有効性については、理論と実践の往還・融合を通して導き出されるものであると考えますが、その先には「自己開発」があり、これは大学院の学修で完結するものではなく、修了後も持続していくことが大切になります。「自己開発」の継続によって得られるものはスキルとしての修得に留まらず、自らの心を練り、器を鍛え、人格の高まりにつながるものであります。「理論と実践の融合」の先には人間としての成長があることを忘れないで欲しいと思います。

「子ども支援力開発実習」での学びと手応え

M2 現職院生 円井哲志

10月に行われた「子ども支援力開発実習」を通して、児童生徒や教員の教育的ニーズを多面的に把握し、共通理解すること、担任と協働して援助方針を考えることの大切さを学びました。今後は、これらの学びをいかして、児童・生徒だけでなく、教員に対しても適切な支援ができるように、さらに学びを深めたいと思います。



M1 学卒院生 菊池貫太

後期日程も中盤に差し掛かる中、講義や実習を通じて多くの学びを得ることができ、充実した日々を送っています。院内の講義では現職院生や学卒院生との交流、実習では学校現場に身を置くことにより、理論と実践の融合を目指して往還させながら学びを深めることができました。様々な立場の方々との交流の中で、教職に対する意識も日々高まっていると感じています。

教職大学院の日々



M2 学卒院生 小林美奈子

8月の下旬から11月にかけて連携協力校で実習をしました。実習期間中は授業や教材準備に携わらせていただくことは勿論のことですが、学校公開研究会や学習発表会等の学校運営に携わる経験もしました。このように、専門実習は授業づくりを経験するだけでなく学校現場の空気感も学ぶことができ、教員として働くことへの自信に繋がっています。



M1 現職院生 細川純平

教職大学院では、2年間の成果を教育実践研究としてまとめます。今年の夏に研究テーマをポスター発表しました。今後は、1年の2月と、2年の8月に中間発表、そして2年の最後に研究発表会が行われます。研究では、現場での実践と大学院で学んだ理論を往還し融合させることを目指し、現場の先生方、そして子どもたちの学びに貢献できるよう進めています。